

中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.4

余土中学校

地域に根付く「一粒米」の精神 盲目の村長・森盲天外

私たちは「一粒米」の精神で余土の発展に貢献した盲目の村長・森盲天外について興味を持ち、生徒会のメンバーがそれぞれのテーマで調査しました。

① 森盲天外とは



山見 康介さん (3年)

元治元年に生まれ、県会議員を務めていましたが明治27年に目を患い、治療のまいなく失明、失意のあまり、3度自殺を図りました。しかしある日の食事中、一粒の米が膝に落ちたとき、

② 母の支えで一生懸命勉強



松田 志緒理さん (2年)

小さい頃に父を亡くし、困っていた母・クラでした

「一粒米」の精神を得て、前向きに生きるようになりました。その後明治31年、34歳で余土村長に当選。10年間務めました。

③ 一粒米の精神

が、クラはしつかり者で盲天外のために一生懸命働きました。盲天外は明治6年、余土に建てられた曙小学校に通い、習字や読書を習いました。2年後、一番町にあった勝山小学校へ通い、余土から5キロの道のりを雨の日も風の日も通ったそうです。

めませんでした。すると盲天外は村の人が選んでくれたのに、盲目を理由に認めないのは不相当と激怒、県知事に直談判し、村長の許可を勝ち取りました。盲天外が村長としてまず手掛けたのは、村の掲げる目標を「村是」として定めることでした。

森盲天外の経歴と碑 (山見 康介さん作)

一八六四(元治元年) 八月十三日 伊予国伊予郡西余土村(愛媛県松山市)に生まれ	一八七六(明治九年) 愛媛県北予変則中学校(愛媛県立松山高等学校)に入学	一八八二(明治十五年) 東京に出て、同人社で学ぶ	一八九〇(明治廿三年) 愛媛県会議員に当選。しかし議員在任中に眼病を患い、失明。議員を辞し、余土村に帰郷	一八九八(明治廿九年) 二月、余土村長に就任	一九〇〇(明治廿三年) 余土村長を勇退し、松山市へ移住。私立愛媛盲学校(愛媛県立松山盲学校)を設立	一九〇七(明治四十一年) 首領学校(愛媛県立松山盲学校)を設立	一九〇八(明治卅二年) 自伝「一粒米」を著した	一九二二(大正十一年) 十月、天心園を閉き、青年教育に従事した	一九三二(昭和七年) 十月、道後湯之町長に就任	一九三四年(昭和九年) 四月七日、町長在任中に死去
---	--------------------------------------	--------------------------	--	------------------------	---	---------------------------------	-------------------------	---------------------------------	-------------------------	---------------------------



たまたま箸から膝の上に落ちた米を指先に乗せていると、盲天外はあることに気付きました。それはわずか一粒の米にもほんの少し重さがあるということ。一粒の米に宿っている命の意味を考え、自分のエネルギーになっっていることに気付き、自ら命を絶つてはいけな

④ 困難に打ち勝ち村長に



是藤 万季さん (3年)

愛媛県は盲天外が盲目という理由で村長当選を認



松本 侑真さん (3年)

たまたま箸から膝の上に落ちた米を指先に乗せていると、盲



森盲天外 (松田 志緒理さん作)

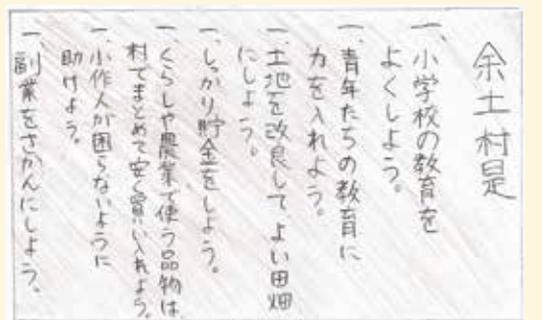
⑤ 子どもたちを大切にしたい余土村是



三木 梨花さん (3年)

余土村をもっと豊かにするための「余土村是」は7つあります。そのうち私が特に興味深いと思ったのは「小学校の教育をよくしよう」「青年たちの教育に力を入れよう」「しつかり貯金をしよう」の3つです。これらには全て子どもが関係しているからです。

⑥ 主な村是



三木 梨花さん作



川端 恂作さん (2年)

「小学校の教育をよくしよう」余土尋常高等小学校を開校したり、安全に登校するために橋を架けたりしました。

「青年たちの教育に力を入れよう」リーダーを育てるために青年実習会を作ったり、いろいろな人に勉強を教えるという環境を作りました。

「しつかり貯金をしよう」よく働き、少しのお金でも貯金するように説いたり、小学5年生以上の子どもに協力してもらい、貯金をするように呼びかけました。

⑦ 全国でも認められた盲天外の功績



上杉 俊輔さん (3年)

「余土村是」は大坂で開催された第5回内国勸業博覧会に出品し、一等賞に

⑧ 特別支援学校を設立し、差別のないまちづくり



相原 和弥さん (2年)

盲天外は盲目でありながらさまざまな活動をして、余土村、そして日本に大きく貢献したすばらしい人だと分かりました。

盲天外が遺したもので、今一番活用されているものは私立愛媛盲啞学校だと思えます。この学校があるから眼病を患っている人たちが学校に行き、勉強することができるようになったからです。もしこの学校を設立していなければ盲天外が目指した「差別のないまちづくり」は成功していなかったでしょう。

⑨ 盲天外の由来



吉岡 桃花さん (2年)

本名、森恒太郎。「盲天外」という名前は正岡子規と関わりがありました。俳句が得意だった盲天外は子規に師事、そのとき子規にもらった名前が「天外」といいます。その後、盲目となった盲天外は自分で「盲天外」と名乗るようになります。

友達、家族、命を大切にしたい



森盲天外の「一粒の米でも粗末にしない」という考えから「物や友達、家族を大切に、そして何より自分の命を大切にしないといけない」ということになりました。このことを意識して、学校生活や部活動で最高の思い出を作っていきたいです。

先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III」



第II巻に森盲天外を収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができ